

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

〇〇高等学校

〇〇〇〇

・公開授業を終えて

公民科では「公共」が新学習指導要領で新履修科目として位置づけられる。今回の授業では、未だ教科書のない「公共の扉（1）公共的な空間を作る私たち」の分野において、文献を参考に学習指導案を作成し、対話的な手法を通じて事象を多角的に考察、表現させることを目標とした。

授業を振り返って、全体的に内容を詰め込みすぎた点は、見直す点である。また、生徒が言葉の意味を理解しているつもりで、発問、問いを進めていた部分も反省である。

今回取り扱った授業内容は、「男女が対等に参画する社会」である。基本的人権に関わる項目を取り扱う際、私が必ず心掛けていることがある。それは、生徒が誰一人傷つかない授業を展開することである。人権の内容はとても感受性が強く、繊細であり、生徒本人の家族構成や家庭環境、友人関係などと時機にかなっている場合がある。そのため、事前に言葉や内容を慎重に精選し展開するようにしている。

授業展開では、KP法を用いた。生徒の知識・理解を深めるために、PowerPointとは異なり、言葉や考えをシンプルに示すことができる手法である。余計な情報を排除して重要語句やお互いが理解し合うためのキーワードだけを提示し、思考整理道具として活用させることを目的とした。授業準備の段階では、何を必要とするのか、時間をかけて精選した。ただ、前述したように内容を詰め込みすぎた為、生徒の記憶に残る理解につなげるためには、更に内容の精選が必要であると感じた。

・『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を行う上での留意点

授業の導入時において、本時の授業にどのような意欲で参加するのかを示した態度目標を設定した。展開時には、ペアワーク・グループワークでの「対話」の時間を設け、活発な意見交換が行われていた。「対話」については、討論やディベート等とは異なることを以前から指導してきた。私自身も、常に生徒との対話を重視しているため、「問い」において生徒からの回答を否定しないように心がけている。また、生徒の発言を正答に導くために、発言に更に質問を投げかけるなど対話を繰り返すことを実践している。授業の中で生徒自身は、自分と異なる考え方と向き合い、見えない対話（自己内対話）を繰り返している。このような一つひとつの活動が深い学びにつながるのではないかと考えている。私はそのきっかけ、つまり自分とは異なる考えとの出会わせ方を様々な視点から生徒に投げかけられるように発問を工夫している。

・公開授業の研究協議において、その後考えたこと

参加してくださった他校や本校を含め多くの先生方に様々な意見をいただいた。授業以外の意見として、本校の先生方の参観が大変多く、職員集団の意識が高いという感想は大変うれしく感じた。今回の公開授業は、教科の特質に応じた見方・考え方を地歴・公民科だけでなく、全教科の職員が自分の授業実践力の向上を図るための時間であった。研究協議やその後の教科会等でいただいた授業展開に対する意見を真摯に受け止め、今後も授業力向上のために、自己研鑽に励む覚悟である。